

[中吐]ドキシソルピシン療法

外科 管理番号 RST001

処方医:

適応症: 軟部組織腫瘍

3週間を1クールとし投与を繰り返す

総投与量500mg/m²を越えない

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
ドキシソルピシン	●																					●

身長: _____ cm _____ kg 体表面積 _____ m²

[投与スケジュール] (_____ クール目)

Day1(月 日)

心電図チェック(投与毎)

本管		側管	
薬剤名	投与量	薬剤名	投与量
生食250mL [90分 点滴静注] 血管内洗浄のため必ず全量投与	1瓶	グラニセトロン点滴静注バッグ3mg デキサート注 [30分 点滴静注]	1袋 9.9mg
		生食100mL ドキシソルピシン 75mg/m ² [30分 点滴静注][壊死]	1瓶
		生食20mL [静注]	1管

DAY2(月 日)~3(月 日)

薬剤名	投与量	
デカドロン錠	8mg	1x朝食後

[適正使用基準]

- 重症感染症またはその疑いがない
- アントラサイクリン系の累積投与量に注意すること(総投与量が500mg/m²以下である)
- 心疾患の既往がない
- 心機能の評価
 - 不整脈がなく、心電図も非特異的T波変化までである。
 - 心駆出率(ejection fraction;EF)が十分である(50%以上)
- PS(Performance Status)が0~2である
- 生理機能が十分に保持され、下の基準を満たす。

[DLF]

ドキシソルピシン

心毒性および骨髄抑制

ドキシソルピシン

(今回の投与量) (累積投与量)

mg _____ mg _____

※累積投与量が500mg/m²を越えないこと

血液一般検査	WBC (/μL)	4000 ≤	
	NEUT (/μL)	1600 ≤	
	PLT (/μL)	15万 ≤	
	HGB (/μL)	11.0 ≤	
血清生化学検査	GOT (IU/L)	≤40	
	GPT (IU/L)	≤35	
	T-Bil (mg/dL)	≤1.2	
	Cr (mg/dL)	≤1.1	

[肝・腎機能を考慮した投与量の調節]

ドキシソルピシン 肝障害時用量調節

ドキシソルピシン	1.5~3.0	3.1~5.0	5.0<
TBil	50%減量	75%減量	

[DLFを除く重大な副作用]

《ドキシソルピシン》

- ・ショック【チアノーゼ・呼吸困難・血圧低下等】
- ・萎縮膀胱(膀胱内注入療法時)【下腹痛等】

[アントラサイクリン系抗腫瘍剤の換算表]

ドキシソルピシンDXR	X1.00(mg)
アクリルピシンACR	X0.27(mg)
タウソルピシンDNR	X0.56(mg)
ミキサントロンMIT	X3.13(mg)
エピルピシンEPI	X0.56(mg)
ピラルピシンTHP	X0.40(mg)
イダルピシンIDR	不明